

2017年5月1日

山川克則（ヤマカワオーエンタープライズ）

【キーノート】

皆様こんにちは。全日本大会プロデューサの山川と申します。全日本大会の公式 web ページに、プロデューサ声明というタブを作成していただきました。

日本にオリエンテーリングが導入されて 50 年、全日本オリエンテーリング大会（以下全日本大会）が始まって 43 回、ここまでの全日本大会は都道府県オリエンテーリング協会が持ち回りで主管し開催してきました。しかし高度な技術と運営能力を必要とする全日本大会を、地方持ち回りで開催することは難しく、その弊害も見えてきました。近年では主管を辞退する都道府県オリエンテーリング協会も出てくるようになってきています。全日本大会を継続可能なスキームに改革していくために、私はこの役割に就きました。全日本大会の改革と言っていますが、本当の改革の担い手は実は競技参加者の側にある面も多いと考えています。なので、どこが改革なのかきちんと皆様に広報すること説明することも必要と考え、このページを開設していただきました。スポークスマン的な役割かと思えます。但し、任務範囲はロング・ディスタンス競技の全日本大会に関するこのみで任期2年、発表内容は公益社団法人日本オリエンテーリング協会（以下 JOA）理事会や競技委員会・事務局との意見交換・調整が完了した事項ということになります。

簡単に私のことを自己紹介しますと、東大会・インカレ（厳密には違いますが学生自治のインカレに変えた第3回以降）・クラブ7人リレーの創始者で、この世界で最も大きな果実を継続的に生み出してきました。それらの大会は、全日本大会に匹敵するようなステージの高い大会に育てることが当時の目標でした。これらの大会は創設当初のスローガンのまま現在も継続されています。昨今、色々なナビゲーションスポーツがブームを迎えています。それら派生種目も含めて根本にあるナビゲーションスポーツの源流は国際的にもわが国でも 50 年続いている“オリエンテーリング”です。その総本家・総本山の中心となるべき全日本大会が、ずっとこの国のナビゲーションスポーツの最高ステージであり続けられるよう、自分のプロ人生の最後にこの仕事をやり遂げる所存です。それ以上の詳しいことは私の web ページや SNS 等を読んでいただくか、O-Support 小泉氏の Top of Orienteering のページを参照して下さい。では、全日本大会の間合先は私の所になっていますので、皆様から頂いたご質問に対して回答し、理事会・競技委員会・事務局等々に確認できて広報すべきと考える内容をここで皆様に展開して行きます。日付の新しいものが上になるように追加掲載していきます。

<参考ページ>

- 2015.3.19 全日本大会パブリックコメント募集 http://www.orienteering.or.jp/archives/2015/0309_post-64.php
 - 2015.5.25 第2次 WG 募集 http://www.orienteering.or.jp/archives/2015/0525_2015-2.php
 - 2015.6.29 パブリックコメント公開 http://www.orienteering.or.jp/archives/2015/0629_post-71.php
 - 2015.10.21 第2次パブリックコメント募集 http://www.orienteering.or.jp/archives/2015/1021_292017.php
 - 2016.1.4 第2次パブリックコメント公開 http://www.orienteering.or.jp/archives/2016/0104_post-81.php
 - 2016.3.28 プロデューサ公募 http://www.orienteering.or.jp/archives/2016/0328_post-87.php
 - 2016.5.6 プロデューサ決定 http://www.orienteering.or.jp/archives/2016/0506_post-89.php
 - Top of Orienteering <http://www.o-support.net/category/too>
-
-

<5月1日号>

【改革の骨子】（一部現状）

- ・ JOA 会員持回り主導の運営から JOA 直轄の運営にシフトする。真に国を代表する大会となるよう中央組織自らが、その内容・質をコントロールする。名実ともに最高質の大会になるよう努力する。
- ・ 全日本大会の低迷原因は、学生層およびそれを卒業した 45 歳位までの層の半数以下しか参加しなくなってしまい、財務状況が悪化したことも大きな原因である。真の意味で生涯スポーツ（Sports for all）となるよう規模をかつてのように大きな大会に復活させる。全年齢層が集結する大会を目指す。全日本選手権とジュニア全日本選手権とマスターズ年齢別選手権を全て一同に行う全日本オリエンテーリング大会は、他のスポーツにはないユニークな部分、生涯スポーツ“オリエンテーリング”のまさに真骨頂の部分である。具体的目標は 900 人以上の参加者を集める。
- ・ マッパーだけでなく、競技の根幹に関わるような部署は、すべてこの国の最高人材を据える。専門特化分野としてボランティアのルーチン運営分野とは一線を設け、要所にプロ運営者を配置する。（ちなみにプロデューサは公募条件にあるとおりの無償です。）今回は、地図作成では第一人者の Nishi-Pro の西村氏、プランナーに、この国のオリエンテーリング教本を作成している吉田氏、計測システムにはランニングイベントの計測スタッフとしても活躍されている大場氏を招聘（バックのシステムでは的場氏も協力）、広報は JOA 事務局とスポークスマンであるプロデューサで今回は行っているが、いずれはプロ分野と考えている。大会進行 MC や演出面もプロ発想の高い質のものを目指したいが、今回の全日本大会は上述のように財務状況改革も並行して行っている。今回は、地図・コース・計測はプロだが、残りの項目は懸案努力目標として将来を見据えたい。MC は JOA 内常設全日本大会実行委員会委員長である木村氏が自ら行い、可能な範囲でサポート要員を配置し、舞台装置・掲示内容など予算的に許される範囲で前向きな取り組みを行う。ルーチン運営部門では、当初の持回り式の当番でどこも引受けなかった関東ブロックの各都県協会が役員供出の協力はするという約束がありそれを遂行する。
- ・ 改革は必須の状況だが、競技規則という法に則って行うことは言うまでもない。改革に伴う経過措置的な部分が発生するが、それは中央組織として全体でコンセンサスを得て、オリエンティアの皆様にもどこが改革なのか、きちんと広報し説明する。

【目標】

- ・ この改革は一朝一夕でなし得るものではない。一旦競技オリエンテーリングを離れた人のモチベーションを取り戻すには時間のかかる努力が必要である。全てのオリエンティアにとって最高のステージは“全日本大会”であるというステータスをまずは確立し直したい。それが出来ればまずは成功（但し道半ば）、私が只の大会ヘルパーに成り下がったら失敗である。誤解の無い様に補足しておく、インカレのステータスは全く否定していない。その上に全日本大会のステータスがあり、同じ船（土台）の上に乗っている（そして今は全日本大会という船が沈みかけている）という説明を学連の場で行った。それが生涯スポーツとして、学生スポーツ単独で成立しうる他の種目と全く違う側面であり、特に土台部分では涉外という人様の土地・自然を利用させていただいて、その理解の元に成立するスポーツであり、その部分はオリエンティア共通の土台である、という説明を理解していただきたい。

【トレインコントロール】

- ・ 質の高い競技会を担保するには、トレインコントロールは必須である。しかし、今までの全日本大会はこれも各都道府県協会に任されたままであった。JOA によりしっかりとコントロールが必要であり、また多数のオリエンティアが集まることが出来る場所で開催することも当面必要である。また他の大きな競

技会のトレインコントロールとも連携していく必要がある。この面からも出来る人材というのは限られる。また急峻な地形が多いわが国の環境の中で国際基準を満たせるようなトレインもごく限られる。これらの側面を考えた上で、高い集中力で地図読み能力を問うことが出来、かつコース距離に占める登りの割合が国際基準の4%以内に収まる可能性のあるトレインをプロデューサ就任に際し、同時に提案した(43回: 矢板、44回: 中津川椈の湖)。かようにトレインコントロールは前もって行う必須項目なので、今期プロデューサの任期は2年だが、交替するにしろ留任するにしろ、今任期中にこの先の提言まで行うのが業務の内であると考えている。

【経過】

- 上述の失った参加年齢層回復の為に打った策として、インカレセクションとの合同開催という提案をした。当面の応急措置だが確実に参加者増を見込め、学生の世界との融合を図る中でベストな解が将来見つかれば良いという目論見であった。これについて昨年度1年間、学連の中でかなりの時間をかけて議論していただいた。その議論の中でセクション併催ありきから任意選択案に変わった。それでも全日本開催地に近い地区学連は併催前提という議論だったが、結局北東学連は採用したが、関東学連は年度終盤の総会で僅差だが否決(セクション独自開催)という結果になった。すべてが民主的組織の中で運営されていく原則に則り、この決定は尊重されなければいけない。ただこの議論の中で、全日本大会が目指すべき本当の行く先の見えてきたことは、長い議論が無駄ではなかったことを示唆してくれた。セレ併催を否決した関東学連の中の意見として、そういう全日本大会なら純粹に全日本大会として参加したいという意見も少なからず聞かれたことも将来の方向性を、より視界を良くしてくれた感がある。
- セクションと全日本大会の併催ということは、全日本大会選手権クラスの方に出場する学生選手の処遇という問題から、最初はE権取得者のセクション免除をいう方策を提案し、特にこの部分で学連とは有意義な議論ができた。新しい制度は経過措置的周知期間が必要ということで、今回の全日本大会には採用されなかったが、30年6月開催の全日本大会の21E権を得た者にはセクション免除ということになった。また議論の中盤でこの案はセクション併催議論とは切り離して考え、この案自体を独自の改革案として扱った方が良いと考えを修正し、先に結審された。(すでに3月のプレ全日本大会からその予選の予選たる公認E権獲得の争いが学生の間で始まっている)。これで今後の公認大会は今まで以上に学生の参加が見込め活性化に繋がればよいとの考えである。但し、公認大会申請期限の関係からその効果が検証できるのはまだ時間がかかる。同じ船の上に乗って、同じ方向の高みを目指すという点で、今後の公認大会企画の動きにも注視をしたい。
- 最初のE権取得者免除案には20Eに関する記述もあった。しかし、21と違って20Eに昇格する下地の周辺は、現行の規則が複雑な二重基準であり、どう案を捻出しても(18で区切るとか色々な案が出た)、何かしらの齟齬が生じてしまうことが議論しながら判ってきた。今までの公認大会等でも、20クラス周りは例外措置が何回も採用されたが、有効にここの選手層が呼応できたかといえば、決してそうではないという評価が妥当であろう。結果20Eに関するインカレ特典は見送られた訳だが、議論をしたことによって良い効果が生まれ、大学生前半と高校生(一部の中学生)との熱い戦いの場が3月のプレ全日本大会で行われ、今後もそのような動きになるだろうと予感させてくれたことは、大きな収穫であった。

【学連(インカレ)と全日本大会・JOA公認大会との相互資格交流制度とは?】

- これまで公認大会を企画しても、せっかく準備しても学生さんにあまり参加してもらえない、こういう嘆きの声をあちこちで聞いています。この制度はそれを解消し、同じオリエンテーリング村の中なんだから相互に交流できるような規定で同じ方向性で前を向きましょうという提案を行い、昨年一年間学連の中でかなりの時間を割いて議論してきました。昨年12月からはJOA側との交流議論も始まり、学連はこの3月総会で決定、JOA側も3月JOA理事会で以下のようなE権資格交流制度が決定しました。簡単にいう

と、県協会やクラブが行う公認大会の E クラス・21A クラスが、インカレ予選に繋がる回路を今後は持ち、学生の参加を今まで以上に促す効果がある、ということです。

・ 公認大会→インカレ（ロング）

公認大会で好成績を収め、全日本大会（ロング）21E 出場資格を得たものは、インカレ（ロング）セレクションに出場を免除され、別枠でインカレ選手権クラスに出場できる。

＜別枠で出場できる人数が増えすぎて運営の負担となった場合、学連は方法を再考するが当面はこれで＞

＜巢の資格無しからのステップアップ方法は、選手登録→21A で公認 21E 権獲得→公認 21E(orE)で全日本 21E 権獲得＞

・ インカレ→公認大会、全日本大会

インカレ（ロング）選手権入賞者（6 位以内）→次回全日本大会 21E 出場権

インカレ（ロング）男子選手権 15 位以内→公認大会 E 出場権（当該年度、および翌年）

インカレ（ロング）女子選手権 10 位以内→公認大会 E 出場権（当該年度、および翌年）

インカレ（ミドル）選手権入賞者（6 位以内）→公認大会 E 出場権（当該年度、および翌年）

※全日本ミドルについては、現状プロデューサの業務範囲外で、JOA の見解としても現行の仕組みは、県協会から申請のあった大会を全日本ミドルと指定する方式で、開催されない場合もあるという認識論。従って、インカレ予選的な意味合いでは、通常の公認大会と同じ扱い。

※またこの免除方式によって、全日本大会でインカレロング地区セレクションを併催する選択肢は依然残されている。それは地区学連ごとの決議によって行われる、これは 30 年 6 月の全日本大会についてもこの位置づけ。（今回は、北東学連がセレクションを併催、加えて北信越学連がセレクション併催を決議しました。）

【改革の第一歩は、年齢の算定基準を変えたこと（ここが経過措置）】

- ・ 今回の全日本大会で過去の年度超えの全日本大会と変更を行った部分があります。この変更部分で理事会・競技委員会説明にも多くの時間・エネルギーを割きました。変更部分は、年齢計算を前年度起算ではなく、開催日起算に変えるということで、これが改革の第一歩、経過措置の部分であるということです。

1. 低迷が明らかな 3 月開催にはもう戻らない。

（少なくとも私がプロデューサの期間は 3 月開催には戻らないことを断言します）

2. 全日本のロングの大会は欠かさず行う。（年度スキップはしない）

3. プロデューサ就任に先立つ WG の最終提言でも全日本大会をこう定義しました。

生涯スポーツ”オリエンテーリング”の一番の晴れ舞台として、全日本選手権者、ジュニア全日本選手権者、を決する大会だけでなく、35 歳以上も 5 歳刻みに年齢別チャンピオンを決める大会である。

- ・ しかし、それで前例の年度超え全日本大会のように前年度年齢算定基準を適用してしまうと、若い層には逆に非常にわかりにくいし、特に新たにオリエンテーリングを始めた人にとっては、お呼びでない大会との印象を持たれてしまう。生涯スポーツと言うからには、全年齢層に開かれた大会であるべきであって、ステップアップの階段も常に新たな供給元が必要なのに、前年基準では合理性を欠く対象も発生する（相互交流でインカレ予選に相当するクラスに出場できない 1 年生が発生し、公平な基準ではなくなる）。
- ・ つまり何年度の全日本チャンピオンかということに関してはスキップしませんが、35 歳以上の方の年齢算定に関しては 1 歳スキップするということになります。35 歳以上は意欲さえあれば 21 クラスまで下のクラスに挑戦できるという規定もありますから、若者層の不具合の大きさに比べれば大きな問題ではないとしました。また若者層と熟年層で二重の基準を作るのもそれは愚策であるとの考えです。（二重基準が愚策であることについては私の今までの個人的演説でも多くを触れています。）唯一の例外が 21 歳になった 20E 権取得者が 20E に出場できて、ジュニアの選手権を競う、ということです。これは今回ジュニアの 28 年度のチャンピオンを決するという理念の方が優先されるべきだからです。それ以外の例外はなく、も

う前を向いたステップアップの階段を用意した規定になります。例えば、今回の基準で 21 歳になった人はもう 20A には出られません。資格の相互交流が始まる 21A に出場下さい。

【最近はやりの派生種目とのスタンスは？】

・OMM ランナーから受けた質問とそれに対する私の回答です。ご参考に。

<Q> 3月のプレ大会の要項の後頁に言及のありました UOL/UOM のクラスに関して、6月の本大会において実施されるご予定はありますでしょうか？

<A> 全日本オリエンテーリング大会、プロデューサーの山川です。プレ全日本のプログラムには当該クラスも設置予定とご案内致しましたが、UOL/UOM クラスについては、オリエンテーリングの教本を作成している者を、コースプランナーに招聘し、氏との議論の中でオリエンテーリングの全日本大会なんだから、正統派のオリエンテーリングの大会にしましょう、ということで一致し、OMM 的な参加層の方にはそのことだけにおもねるのではなく、6月開催ですので、時期的に同じ境遇にある大学の新人層（これが実際オリエンテーリング人口の供給源となります。）にも最適な M21B 他というクラスを用意しました。教本レベル 4、ウィニング 60 分設定ですので、選手登録は必要ありませんし、十分他流試合としても歯ごたえのあるコースを提供する予定です。多分 OMM レベルのナビゲーション能力（基礎部分）では、ウィニングは出せず、もう少し地図読みを鍛えないといけないな、と思うくらいの他流試合になると思います。もっと地図読みに関して刺激的な他流試合をお望みの OMM 的な方は、4/30 までに選手登録をして（ネットで簡単にできます）M21A に挑戦して下さい。こちらは 80 分の地図読み込みの濃い内容、インカレ選手権のコースと同じレベルです。その上の日本選手権は 90 分で、予選を勝ち抜いた有資格者だけという規定になっています。

このあたり民間大会の東大 OLK 大会などと違って OMM 的別コースとはなりませんでしたが、どうかご理解の上、参加をご検討下さい。

【選手登録の有効期限と選手登録の必要の無い B/C/N クラスの充実】

- 選手登録期限の質問もかなり受けました。要項の 4 月中の登録というのが、かなり高いハードルとの印象を受けたようです。昨年度選手登録をされた方は、その有効期限が JOA の規約類のページにありますように、有効期限が本年 6 月迄ですので昨年の登録で参加していただくことができます。前年度選手登録をしなかった方は、4 月 30 日までに選手登録を済ませていないと A クラスには参加することができなくなります。こんな方が該当するかと思います。（登録後有効になるのは 2 ヶ月後という規定を適用）
 - そもそも選手登録しなかった方、忘れた方（プレ全日本でも JOA サイドの判断で出場が許されなかった方が何人かいらっしゃいました）
 - 例えば高校時代の経験者で、浪人中もしくは 3 年次受験で一時的に引退していて前年の登録がないけど、経験者なので B クラスではなく A クラスに出場したい人
 - 普段はもっぱら OMM 的なナビゲーションゲームを楽しむ方で、最もハードルの高い他流試合（A クラスのことですね）に挑戦しようという方。
- 但し 3. に関しては選手登録がなくても例えば M21B はレベル 4 でウィニング 60 分ですから、十分挑戦しがいのある他流試合だと思います。プランナーにはここでも選手との真剣勝負で取り組んでいただいています。
- 新規参加者の登録が 4 月中では間に合わない、という問合せもいただきました。元々、新年度の登録が 4 月のこの時期に間に合うことは各都道府県協会においても、各学連加盟校においてもあまり想定していません（間に合えば尚良し程度）。本来生涯スポーツとしてオリエンテーリングのあるべき姿、また年齢だけでなく幅広い楽しみの程度にあわせてクラス選択をできるようにと、プランナーとかなりの議論・企画時間を割いて、工数アップ・コストアップも承知の上で、例年になく B/C/N クラス（選手登録不要）を充実させることにしました。クラス選択ガイドはこの web の別タブでプランナーよりご案内しています。さらに前大会より B/N クラスとも大幅に値下げを行いました。今年度新たにオリエンテーリングを始め

た方、および OMM 的な取り組みをされている方の他流試合としても、オリエンテーリングの正統性を保ちながら受け皿をきちんと用意する、としました。これは、かつての全日本大会が“Sports for all”のローガンの元、持ち得ていた輝きの部分かもしれません。

<参考>要項での説明：JOA 公示資料（付録 2：よくある質問にお答えして“登録費を支払わない人が増え、愛好者減少にならないでしょうか？”での回答文）ですが、現在 JOAweb のアーカイブ、どこを探しても私は見つけられませんでした。手元に紙書類として持ち合わせていますので、ここに掲載することにします。この JOA 声明に忠実に本大会ではそれを具現する努力を致しました。そしてオリエンテーリングの面白さ・楽しさに目覚めた皆さん、地図とコンパスをもって次に森の中に入る時は是非 A クラスにも挑戦してみましょう。私たちの仲間になってオリエンテーリングの裾野を広げましょう！

財政改革論議（登録費値上げ等）の時に JOA より配布された資料の付録 2：よくある質問にお答えして 5 つの仮想質問に対する回答（抜粋）

- ・ JOA もコミュニケーションが不十分であったと認識しています。今までのようなブロック理事等による顔を合わせての話し合いに加え、会員 ML での情報連絡強化を図ります。また JOAweb サイトを活用し情報公開に努めます。JOA の窓口も出来るだけ明確にし、JOA が行っている活動が広く伝わるよう、オリエンテーリング界内外に対する情報発信に務めます。
- ・ 愛好者減少を食い止めるには、B クラスや競技者登録を必要としないクラスを大会に設けることを推奨します。競技者登録を必要としないクラスは、規定に縛られない運営が可能です。これは中級者の楽しみを維持するのに寄与するだけでなく、初心者を受け入れやすい環境、ナビゲーションスポーツに興味を持つアウトドア活動家の参加を容易にするメリットもあります。競技スポーツとしてのコアを大事にしながら、自由な発想で仲間を増やしませんか？

【継続性の価値を作り出す主役は参加者の皆様】

いただいた質問の中に、このようなご意見がありました。“全日本大会の価値を高めていくのは他でもない参加するオリエンティア自身であると、私は考えています”・・・まさに“わが意を得たり”です。インカレも 7 人リレーも企画者が立派だった訳では決してないと私は考えています。そして私が立派な人だとは今も誰も思っていないでしょう。もっとも批判を言いやすい、もっとも意見を言いやすい、そしてダメダメな所もすべて皆様に見せながら今日ここまでオリエンテーリングの発展に取り組んできました。価値というのは、参加者の側に存在する。練習含めたそこまでの過程の中に存在する。それが私の信念です。それと全日本の表彰式、ちょっとさびしい思いがしませんか？ 仲間に祝福されてこそ、努力が報われてこそその表彰式、表彰式を厳粛に位置づけるのはそのスポーツの成熟度を表していると思います。表彰式には、ご自身のカラダだけでなく、是非クラブ旗など仲間の存在を示すものをもって壇上に上がって下さい。仲間はそれを祝福してあげて下さい。

※今回の演説はここまでです。全日本大会の問合せ先は私宛になっていますので、今後もその回答の中で、皆様向けに発信した方が適切な内容とか、全日本大会を盛り上げていくのに必要と思う内容についてはここで追記していくことに致します。長文にお付き合いいただきありがとうございました。